

春季年会は、化学に関する学術の進歩普及・産業の発展および生活の向上を狙いとして、およそ化学という言葉が包括するあらゆる学問領域や分野からの研究者が一堂に会して日頃の研究成果を発表する場であり、その討論を通じて学術交流を奨励・促進する場です。



第106春季年会は、日本大学理工学部船橋キャンパスで開催されます。関東地区では一昨年に引き続きの会場となります。昨年は、京都大学特別教授・北川進先生がノーベル化学賞を受賞され、日本の化学界にとって大変喜ばしい年となりました。春季年会は、学生による7分間講演から各種シンポジウム、受賞講演まで、化学および関連分野の幅広いプログラムをそろえた国内最大規模の学術集会であり、今回は、北川先生による受賞記念講演も予定しています。また、キャンパス内のCSTミュージアムでは「見えないものを測る」企画展を開催し、研究施設の公開も予定しています。実行委員・事務局一同、皆様楽しんでいただき、研究の発展につながる学会となるよう準備を進めています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

(実行委員長 大月 穰)

**主催** 公益社団法人 日本化学会  
**共催** 日本大学理工学部  
**会期** 2026年3月17日(火)～20日(金)  
**会場** 日本大学理工学部 船橋キャンパス (千葉県船橋市習志野台7-24-1)

**実行委員長** 大月 穰 (日本大学理工学部・教授)

#### 内容 アカデミックプログラム

受賞講演, 外国人の特別講演, 若い世代の特別講演,  
 口頭A講演, 口頭B講演, ポスター

#### シンポジウム

イノベーション共創プログラム, 中長期テーマシン  
 ポジウム, アジア国際シンポジウム, 特別企画

#### 併催シンポジウム・行事

会長講演, 表彰式, コラボレーション企画, 本会委  
 員会主催シンポジウム (市民公開講座等)

**講演予稿集発行日** 2026年3月3日

**問合せ先** 日本化学会 企画部 年会係

URL: <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/cs106th>

■講演予稿集の発行形式はWebのみです。会期が終了してから3ヵ月経過した後、年会参加者以外による予稿集の閲覧が可能となります。

#### 参加登録

##### [注意事項]

・講演申込者・講演者(登壇者)・連名者(共著者)の如何にかかわらず本年会に参加される方は、全員参加登録が必要です。※一部招待者を除きます。

#### 1 登録期間

(直前申込) 2026年3月10日～会期最終日

#### 2 登録方法

春季年会ウェブサイト上の参加登録フォームよりお申し込みの上、期限内に参加登録費をお支払い下さい。

#### 3 参加登録費

参加登録費は以下の表のとおりです。

参加区分		参加登録費 (直前申込)	課税区分
会員	一般*1	21,000円	不課税 ※税の適用の対象外
	シニア/教育*2	12,000円	
	学生*3	6,000円	
	中高生(聴講のみ)	無料。会場にて受付	
非会員	非会員	35,000円	課税 ※左記の金額は税込
	学生	8,000円	

\*1 個人正会員および法人正会員に登録している機関に所属の方。

\*2 シニア会員, 永年会員, 終身会員, 教育会員の方。

\*3 学生会員, 教育学生会員, ジュニア会員, 中高生会員(登壇)の方。

#### 4 支払い方法

支払い方法はクレジットカード払いのみとなります。

- 支払い完了した後、参加登録フォーム内にて領収書を発行します。領収書の発行はPDF形式のみです。
- 請求書は、参加登録および決済手続き開始後に、参加登録フォーム内にて発行します。PDF形式のみです。書式の変更等には対応いたしかねます。公費払い・校費払いの場合も同様に書式変更には対応できません。
- 郵便振替でのご送金は承っておりません。

#### 5 参加証

参加証の事前送付はいたしません。参加者は自身にて参加登録サイトより参加票をダウンロード・印刷の上、会場にお持ち下さい。ダウンロードは3月3日から可能となります。参加証ホルダーは会場にて配布します。

#### 懇親会

##### 1 日時

2026年3月18日(水) 17:40開宴 (17:20開場)

##### 2 会場

日本大学 理工学部船橋キャンパス 食堂2F「ファラディホール」

##### 3 懇親会費

(直前申込: 2026年3月10日～)

一般 6,000円, 学生 2,000円

##### 4 申込方法

春季年会ウェブサイトよりお申込み下さい。

URL: <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/cs106th>

## 各種企画一覧

本年会での行事、企画は下表の通りです。プログラム等の詳細情報は春季年会ウェブサイトにてご確認ください。

分類	企画名	3月17日(火)			3月18日(水)			3月19日(木)			3月20日(金)	
		午前	午後	夕方	午前	午後	夕方	午前	午後	夕方	午前	午後
	会長講演・表彰式					●						
	ノーベル化学賞受賞記念講演						16:00-					
	市民公開講座 広がる化学、ひらく未来											●
	実験教室 ーおもしろ化学実験ー										●	●
	元素川柳				正午締切			結果発表				
	付設展示会	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
	第106春季年会 懇親会						17:40-					
	ケムステイブニングミキサー			17:40-								
▼ 以下は『シンポジウム企画』です。春季年会の参加登録が必要です。												
イノベーション共創プログラム(CIP)	研究 DX・ラボオートメーションが拓く研究開発の新時代ーその実践と課題ー	●	●									
	水の科学と技術が拓く持続可能な未来							●	●	●		
	次世代太陽電池の基盤技術と実用化							●	●			
	バイオマス活用で実現するカーボンニュートラル	●	●									
	超高容量二次電池向け負極、古くて新しい金属負極の研究開発										●	●
	再生可能エネルギーを支える長期エネルギー貯蔵技術(LDES)										●	●
	バイオ医薬品の最前線を支えるスマートケミストリー				●	●	●					
	デジタルヘルスケアの最前線							●				
	世界を変えるバイオベンチャーの新たな戦略								●	●		
	フレキシブル分子性結晶材料ソフトクリスタルが切り拓く革新的技術開発					●	●					
	新しい機能性材料を創出するバイオミメティクス研究の最前線		●	●								
	GaN マイクロ波加熱が拓くものづくりの未来				●	●	●					
有機電解合成の今：最新技術動向と化学品製造への応用の可能性										●		
中長期テーマシンポジウム	シーケンシャル物質化学：秩序と無秩序の時空間制御					●						
	有機太陽電池を基軸とする有機エレクトロニクスの新展開				●							
	医・薬学と化学から紐解く進化と生物多様性	●										
	分子設計・構築による機能性2次元マテリアルの創製								●			
	カーボンニュートラル実現の鍵：エネルギーキャリア最前線								●			
	水の科学を基盤とする機能材料の設計と構築				●							
アジア国際シンポジウム	Asian International Symposium on Molecular Science — Physical Chemistry / Theoretical Chemistry, Chemoinformatics, Computational Chemistry — Cosponsored by Japan Society for Molecular Science —		●	●								
	Asian International Symposium — Photochemistry —				●							
	Asian International Symposium — Inorganic Chemistry / Coordination Chemistry, Organo-metallic Chemistry —					●	●					
	Asian International Symposium — Analytical Chemistry —	●										
	Asian International Symposium — Electrochemistry —										●	
	Asian International Symposium — Catalysts and Catalysis —								●			
	Asian International Symposium — Polymer —									●		

分類	企画名	3月17日(火)			3月18日(水)			3月19日(木)			3月20日(金)	
		午前	午後	夕方	午前	午後	夕方	午前	午後	夕方	午前	午後
シンポジウム アジア国際	Asian International Symposium — Nanotechnology / Materials Chemistry, Resources and Energy, Geochemistry, Nuclear Chemistry, Radiochemistry —							●	●			
	Asian International Symposium — Organic Chemistry / Green Sustainable Chemistry —					●	●					
特別企画	ルミネッセンス化学アンサンブル：多様な発光種が協奏する多色ルミネッセンス材料							●				
	XAFSと化学：錯体、触媒からリュウグウまで —放射光ことはじめ				●							
	低次元材料と光機能材料のテーラーメイド	●										
	遅延制御によるペプチドの高次構造構築と生命機能操作		●									
	創造の飛跡：未来を拓く「合成と制御」											●
化学と量子科学と生命科学の接点が織りなす最先端研究												●
▼ 以下は『併催シンポジウム』です。年会の参加登録は不要でどなたでもご参加いただけます。												
コラボレーション企画	(JST) さきがけ「調和物質変換」研究成果報告会	●	●									
	(JST) CREST「材料創製と循環」/さきがけ「材料の創製・循環」合同シンポジウム							●				
	(JST) CREST「革新的反応」研究成果報告会	●										
	化学構造リプログラミングが拓く合成科学の最前線				●							
	(JST) GteX (革新的 GX 技術創出事業)「実用電池の革新と次世代蓄電池技術の創出」シンポジウム					●						
	メゾヒエラルキーの物質科学：メゾ領域で機能する材料創製を目指して								●			
	ACS150 JACS Symposium Series: Advancing Molecular Transformations for Chemical Innovation				●	●	●					
π分子複雑性：π分子の構造、状態、機能を繋ぐ新しい階層的アプローチ		●										
本委員会主催シンポジウム	天然物および生物有機化学に関するナカニシシンポジウム 2026		●									
	ケミカルレコード・レクチャー 2026							●				
	理系女子の未来を拓く：多様性推進とキャリア支援										●	
	オープンシンポジウム「次世代分子システムが拓く未来の化学」		●									
	論説フォーラム：SPRING Matters, Equity Matters, Globalization Matters						●					
	第32回化学教育フォーラム：AIは化学探究活動を変えられるか？											●
環境・安全シンポジウム 研究開発現場における安全とリスクマネジメント												●

# 日本化学会 第106春季年会 (2026)

## 付設展示会

参加費  
無料

最先端技術や  
新製品を  
ご紹介!!

化学研究のために不可欠な試験・分析機器、情報処理システム、  
試薬、書籍などの最新情報が集まっています。

会期

2026年 3/17(火) » 19(木)

10:00 ~ 17:25 ※年会は3/20(金)まで

会場

日本大学理工学部 船橋キャンパス  
「理工スポーツホール」

〒274-0063 千葉県船橋市習志野台 7-23-6

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/cs106th>

### スポンサー 一覧

(2026年1月16日時点)

- |                                  |                     |                              |                              |
|----------------------------------|---------------------|------------------------------|------------------------------|
| ■ 株式会社アイ・オール・システム                | ■ 鹿児島ラボ硝子株式会社       | ■ 株式会社スクラム                   | ■ 浜松トニクス株式会社                 |
| ■ iケミカルラボ株式会社                    | ■ 関東化学株式会社          | ■ 株式会社セルシステム                 | ■ ハリオサイエンス株式会社               |
| ■ 旭化成株式会社                        | ■ 有限会社桐山製作所         | ■ 株式会社ダイセル                   | ■ 富士シリシア化学株式会社               |
| ■ 株式会社旭製作所                       | ■ 株式会社QueenB        | ■ WDB株式会社エウレカ社               | ■ 富士フィルム和光純薬株式会社             |
| ■ 株式会社朝日ラボ交易                     | ■ 株式会社グリーンケミカル      | ■ 株式会社DFC                    | ■ 富士紡ホールディングス株式会社            |
| ■ アジレント・テクノロジー株式会社               | ■ 株式会社グローブボックス・ジャパン | ■ 株式会社デジタルデータマネジメント          | ■ ブルカージャパン株式会社               |
| ■ アズワン株式会社                       | ■ 株式会社クロスアビリティ      | ■ データケミカル株式会社                | ■ ブロンコスト・ジャパン株式会社            |
| ■ アドビオン・インターナショナル・サイエンティフィック株式会社 | ■ 研究サポート人材バンク株式会社   | ■ 株式会社テクノシグマ                 | ■ 株式会社堀場製作所                  |
| ■ 株式会社イーシーフロンティア                 | ■ 株式会社コスモ・サイエンス     | ■ 株式会社東京化学同人                 | ■ マックエンジニアリング株式会社            |
| ■ Wavefunction, Inc.             | ■ 株式会社Co-LABO MAKER | ■ 東京化成工業株式会社                 | ■ 株式会社Material Doors         |
| ■ 株式会社エイエルエステクノロジー               | ■ コンフレックス株式会社       | ■ 株式会社トミー精工                  | ■ 丸善出版株式会社                   |
| ■ 株式会社エイソス                       | ■ 公益財団法人相模中央化学研究所   | ■ 中山商事株式会社                   | ■ メタセンシング株式会社                |
| ■ ACS アメリカ化学会                    | ■ 三共出版株式会社          | ■ 日本製紙クレシア株式会社               | ■ メトラー・トレード株式会社              |
| ■ Enamine                        | ■ CEM Japan 株式会社    | ■ 公益社団法人日本化学会                | ■ メルク株式会社                    |
| ■ 株式会社エマージングテクノロジーズ              | ■ CAS               | ■ 公益社団法人日本技術士会化学部会           | ■ 株式会社モルシス                   |
| ■ MI-6株式会社                       | ■ シーシーエス株式会社        | ■ 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構        | ■ 山善株式会社                     |
| ■ MSHシステムズ株式会社                   | ■ 株式会社シゲミ           | ■ 株式会社日本サイエンスコア              | ■ 株式会社UNICO                  |
| ■ エルゼビア・ジャパン株式会社                 | ■ 柴田科学株式会社          | ■ 日本電子株式会社                   | ■ 株式会社ライトストーン                |
| ■ 大阪ガスリキッド株式会社                   | ■ ジャスコインタナショナル株式会社  | ■ 日本分光株式会社                   | ■ 株式会社リガク                    |
| ■ オリオン国際特許事務所                    | ■ ジャパンハイテック株式会社     | ■ 日本分析工業株式会社                 | ■ Royal Society of Chemistry |
| ■ 株式会社化学工業日報社                    | ■ Springer Nature   | ■ 株式会社野村事務所                  |                              |
| ■ 一般社団法人化学情報協会                   | ■ 株式会社シン・コーポレーション   | ■ パイオタージ・ジャパン株式会社            |                              |
| ■ 株式会社化学同人                       | ■ 株式会社シンキョー         | ■ 株式会社ハキュブランド サイエティフィック ジャパン |                              |

(50音順)